学校番号	213

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅲ	単位数	４単位	年次	３年次
使用教科書	高等学校　数学Ⅲ（数研出版部）						
副教材等	新課程　教科書傍用　クリアー数学Ⅲ（数研出版） 新課程　チャート式　解法と演習数学Ⅲ＋C（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

難易度がかなり上がります。授業の予習・復習が必要。その日学んだ内容について、問題集の該当問題を解き、理解を深めることが次の授業内容の理解には欠かせません。また、提出物等については、計画を立てて取り組み提出期限を守ること。また、授業の内容で不明点等があれば、できるだけその日のうちに質問して解決することをお勧めします。

2　学習の到達目標

＜知識及び技能＞
極限，微分法及び積分法について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図る。
＜思考力・判断力・表現力等＞
事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにする
＜学びに向かう力・人間性等＞
数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	極限，微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し，極限について考察したり，関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し，数学的に考察したりする力，いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し，事象を数学的に考察したり，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	関数	分数関数 無理関数 逆関数と合成関数	a：分数関数の定義域や漸近線などについて理解し，簡単な分数関数のグラフをかくことができる。 b：方程式の実数解とグラフの共有点の関係を正しく理解し，それを分数関数に適用して共有点の座標を求めることができる。 c：方程式や不等式の考察に，積極的に関数のグラフを活用しようとする。	考査 課題	考査 課題	自らの理解度を把握するための問題演習レポート
	極限	数列の極限 無限等比数列 無限級数 関数の極限 三角関数と極限 関数の連続性	a：数列の極限についての用語や表記および∞の意味について理解している。 b：工夫して式変形し，数列の極限を求めることができる。 c：様々な数列について，n が大きくなるときに第 n 項がどのようになるかに興味をもち，積極的に調べようとする。	考査 課題	考査 課題	自らの理解度を把握するための問題演習レポート
2	微分法	微分係数と導関数 導関数の計算 いろいろな関数の導関数 第 n 次導関数 曲線の方程式と導関数	a：定義にしたがって微分係数を求めることができる。 b：連続性が微分可能性の必要条件であるが十分条件ではないことを具体的な関数を用いて考察できる。 c：連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ	考査 課題	考査 課題	自らの理解度を把握するための問題演習レポート
	微分法の応用	接線の方程式 平均値の定理 関数の値の変化 関数のグラフ 方程式，不等式への応用 速度と加速度 近似式	a：微分係数の意味を理解しており，曲線の接線の方程式を求めることができる。 b：曲線外の点 C から曲線に接線を引くとき，接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて，接線の方程式を求めることができる。 c：接線や法線の方程式を，様々な導関数を活用して求めようとする。	考査 課題	考査 課題	自らの理解度を把握するための問題演習レポート

3	積分法とその応用	不定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 いろいろな関数の不定積分 定積分とその基本性質 置換積分法と部分積分法 定積分のいろいろな問題 面積 体積 道のり 曲線の長さ	a: 不定積分の意味について，積分定数も含めて理解している。 b: 定数倍および和，差の不定積分の公式が適用できるように式を適切に変形できる。 c: 積分法が微分法の逆演算であることから，様々な関数の不定積分を求めようとする。	課題	課題	自らの理解度を把握するための問題演習レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度